

教の協だより

東山梨教育協議会

No. 2

事務局

Tel. 33-2635

Fax. 33-3944

Mail. henkyu@103.net

教育講演会のお知らせ

童話作家 あまんきみこ さん

演
題

「あまんきみこさんと語る」
～こころの中の年輪～

■本の中に自分を見つけると、とてもうれしい！

『車のいろは空のいろ』で空色のタクシーの運転手「松井五郎さん」を世に送り出したあまんさん。

「本を読むということには、2つの意味があると思うんです。ひとつは、多くの世界を知る、ということ。

もう一つは、本の中に自分を見つける、ということ。本の中に自分を見つけると、とてもうれしくて、何度でも読んでしまうものなんですよね」。優しい声で、まるで少女時代そのままに話す。

病気がちで、空を遠く眺め、雲にお話を聞いていたという。「今振り返れば、その時から“空色”が私の心の中に染み渡っていたのかしらませんね」。

作家になりたい、と思っていたわけではない。ただ、宮沢賢治の世界観が好きだった。そして、母として、子どもにお話を聞かせるのが好きだった。

「子どもにお話を聞かせるでしょう。子どもが喜ぶと、もっと喜ばせたくて、お話をもっと大げさにしてしまうんです。すると子どもは喜ばないのよ。以前聞いたときはそうじゃなかった、と不満そうなのね。子どもって、同じ言葉・同じリズムを聞くことで、心が落ち着くんじゃないかしら」。

記録のために、お話を書き留めておくようになった。書くことも、もともと好きだった。

■自ら育つことを「待つ」

あまんさんの道を左右する言葉をさり気なく口にするにも長けていた。

「ある時、先生に、童話雑誌『びわの実学校』には、読者の投稿覧があるんですよ、と言われたんですよ。それを、ぜひ投稿しなさい、と言われたような気がしまして」早速、運転手松井さんが初登場する『主紳士』を初投稿、初掲載される。それを読んだ與田氏は、今度は「松井さんは、これからいろんなお客さんを乗せることが出来ますね」と示唆する。「あ、そうなんだ、と思ひましてね。それから松井さんが走り、途中で止まり、いろんな人を乗せるようになって、お話が少しづつたまっていったんですよ」。山猫や子狐が松井さんと出会い、『車のいろは空のいろ』という形になっていき、多くの子どもや大人の心を楽しませることになっていく。あまんさんが自ら育つことを「待ち」、その時々で示唆した與田氏のスタンスは、学校で多くの子どもらと接する先生たちにおおいに参考になりそうだ。

第1回小学校国語教育セミナー・文化講演「あまんきみこさんと語ろう」より

あまんきみこさん プロフィール

1931年8月13日 旧満州撫順市に生まれる。新京、大連と移り住み、敗戦で帰国。

結婚後、日本女子大学児童学科の通信教育部に入学。與田準一の紹介で「びわの実学校」を知り、作品を発表する。

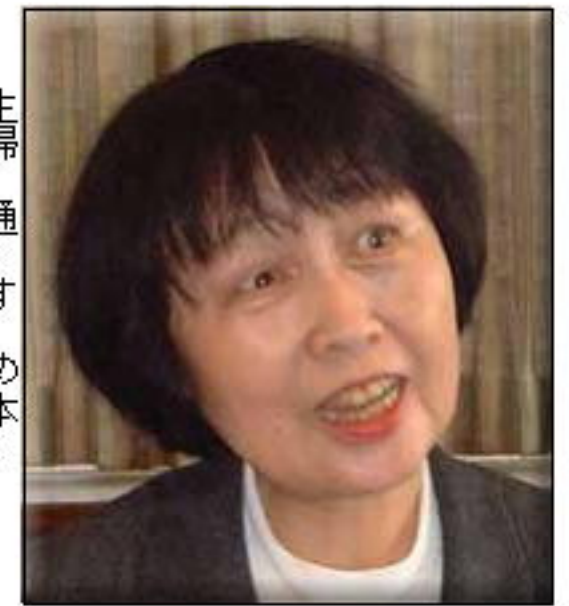
1968年、同誌に掲載した短篇をまとめた『車のいろは空のいろ』を刊行、日本児童文学者協会新人賞を受ける。後に「びわの実学校」同人となる。

2001年春の叙勲で紫綬褒章を受章

◎主な作品

『ひつじぐものむこうに』
『ぎつねみちは天のみち』等

『こがねの舟』で旺文社児童文学賞
『おっちゃんとうさぎ』で野間児童文芸賞
『だあれもない』でひろすけ童話賞
『ちいちゃんのかげおくり』で小学館文学賞を受賞



日時：8月16日（水）午前9時より

場所：山梨市民会館 大ホール